

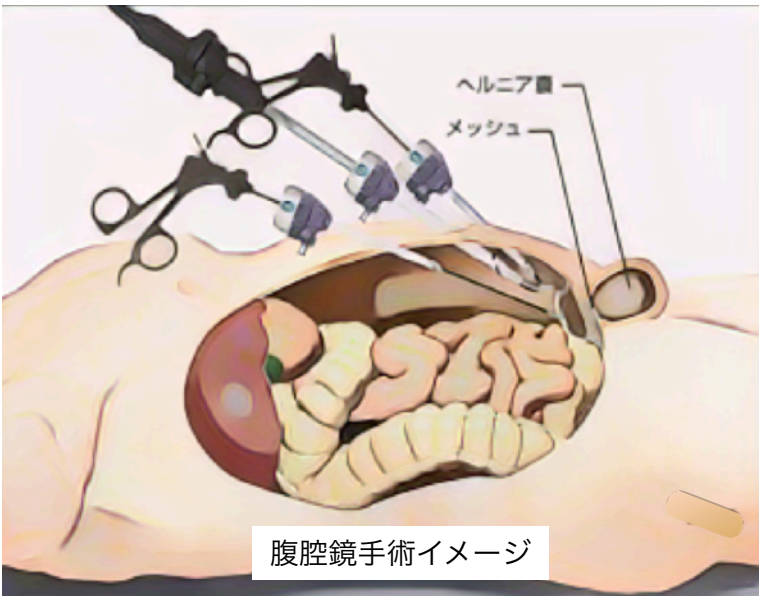
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の導入について

愛媛医療センター外科では腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を導入しました

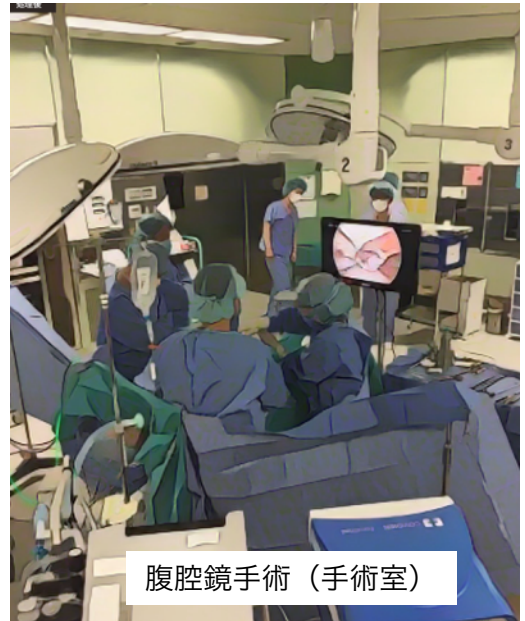
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術とは、全身麻酔し、腹腔鏡による操作で、鼠径ヘルニアを修復する手術方法です。この方法では腹腔内から腹膜のみを剥離し、メッシュを用いて補強します。

このため、鼠径を切開する方法に比べて、かなり痛みが少ないのが特徴です。

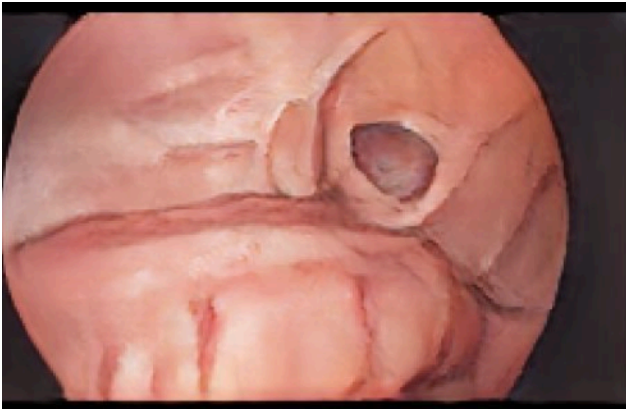
ほとんどの方が手術翌日（または翌々日）に退院しています。従来の鼠径を切開する方法では（当院の場合）通常7日程度の入院をします。ただし腹腔鏡手術を受けるためには、必要な身体条件がありますので、手術前にチェックが必要です。



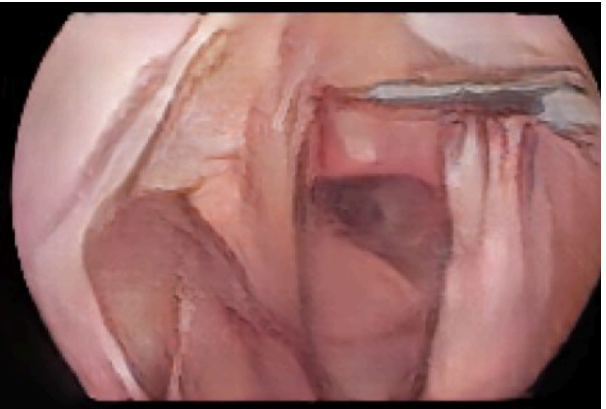
腹腔鏡手術イメージ



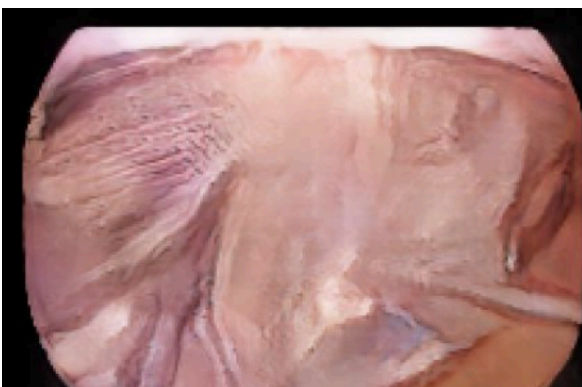
腹腔鏡手術（手術室）



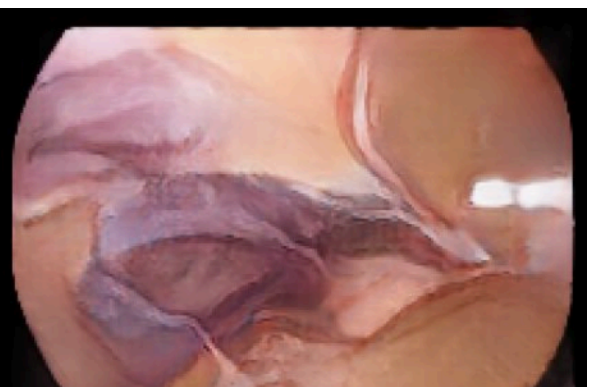
腹腔内部（ヘルニアの孔）



腹腔内部（腹膜剥離）



腹腔内部（メッシュ固定）



腹腔内部（腹膜縫合）